プロジェクト情報

- 国名：パキスタン
- 事業名：技術教育改善プロジェクト（技術協力プロジェクト）、パンジャブ州技術短期大学強化計画（無償資金協力）
- 協力期間：2008 年から 2013 年
- 相手国機関名：パンジャブ州技術教育・職業訓練庁、レイルウェイロード技術短期大学

1. プロジェクトの概要・背景

2030年を目途に工業化の推進に取り組んでいるパキスタンでは、製造業や建設業等を中心に、技術者、特に現場と経営層をつなぐ中堅技術者の需要が高まっています。しかし、人材育成を担う技術短期大学では、教育・訓練サービスが古いカリキュラムに基づいて提供されていること、教員の技術力や指導力が十分でないこと、就業支援が組織的に行われておらず産業界との連携体制が構築されていないことなど多くの課題を抱え、産業界のニーズに応える人材を輩出できていませんでした。そのような状況の中、JICAは、カラチに次ぐパキスタン第二の工業都市であるパンジャブ州ラホールのレイルウェイロード技術短期大学（機械・建築コース）を対象に、同短期大学が、産業界のニーズを踏まえた技術教育を提供できる先進的モデル校になることを目的として、その組織体制の強化、訓練マネジメントサイクル*の確立、学生への就職支援の拡充などを支援しました。

*訓練に関するニーズ調査の実施、調査結果に基づいたカリキュラムの改訂、機材据え付け、教員訓練、教材作成、パイロット・コースの実施、機材維持管理、モニタリング・評価といった一連の活動。

2. ジェンダー視点から見たパキスタンの技術教育・職業訓練

パキスタンでは、一次産業を含む労働市場に参加している女性（就業者と失業者の合計）の割合は2012年時点で24.4%であり、低い水準に留まっています。パキスタンで女性の労働参加が進まない理由として、女性の役割や女性に向いている職業に対する社会の価値観や雇用者の意向、女性の移動が制限されていること、家事や育児などに時間を費やさざるを得ないこと、情報や就職支援、技術習得の機会が不足していること、などが挙げられています。一方、技術教育・職業訓練機関が女性・女子学生に提供するコースの多くは、刺繍や縫製、美容師など、伝統的な性別役割分業を反映したものであり、高等教育機関へ進学できない低・中所得層の女性には狭い選択肢しか用意されていないのが現状です。これらのコースで習得する技術は、正規の労働市場との結びつきが弱く、高い所得も期待できません。女性の労働参加を促進するためには、女性の雇用につながる可能性のある職業分野を新規に開拓し、その職業分野に合わせて、女性の技術習得の機会を多様化する必要があります。さらに、女性がそれらの分野で働くことが可能となるよう、女性自身の意識とともに、家族や地域社会、雇用者の意識も変わるよう、働きかける必要があります。

3. ジェンダー視点に立った取り組み

パンジャブ州では、学生側の学ぶ意欲や就業ニーズがあるにもかかわらず、女子学生が専門教育を受ける機会が限られていました。そこで、プロジェクトでは、大学の建築学科では女性が95%を占めるなど、以前から女性が進出できる分野であると認められており、また、建築分野の仕事は室内でできることが多く、女性が続ける仕事として向いているのではないかとの理由から建築分野に着目し、女性用の施設があれば建築コースに女子学生を受け入れることが可能だと判断しました。そして、レイルウェイロード技術短期大学の教員たちとともにパキスタン政府に働きかけ、2010年、建築学科で女子学生の受け入れを開始しました。

パキスタンでは、私立校や高等教育機関での共学は決して珍しくはありませんが、公立の技術短期大学ではこれまで女子学生の入学は認められていませんでした。プロジェクトの支援の下、レイルウェイロード技術短期大学は、公立の技術短期大学としてはパキスタンで初めての男女共学となりました。これにより、女子学生も、安価な授業料でかつ将来の就業の機会を広げるような良い教育環境で学べることとなりました。

女子学生を受け入れるにあたり、女子学生専用の礼拝室、保健室、トイレ、共有スペースを設けるなど、女子学生が学びやすい環境を整備するとともに、高校を訪問し、女子生徒へ建築コースへの就学を促進するための活動を行いました。初年度に入学した女子学生は28人。2010年からの4年間に入学した女子学生は104人にのぼります。2013年には、女子学生の第一期卒業生21人が卒業しました。卒業後は、難関公立大学へ進学する女子学生が多く、設計事務所等へ就職した女子学生もいます。建築学科で学ぶことに対する女子学生の満足度や学習意欲は非常に高く、男子学生を上回る成績を残しています。

また、建築学科では、教員も女性が半数を占めるまでになり、彼女ら女性教員が、爆発事件が起こるなど情勢が不安定な中でも女子学生の受入れを強く擁護するなど、女子学生の就学に良い効果をもたらしています。

従来パキスタンでは、女性の正規の就業先は、公務員、銀行員、看護師などに限られていましたが、プロジェクトの支援により、建築分野への就業の機会が広がりつつあります。就職需要を見極めつつ、従来は男性の領域であると考えられていた技術分野の教育へ女性の参加を促進することにより、今後は新たな分野へ女性の就業の機会が広がるシステムが作られることが期待されます。